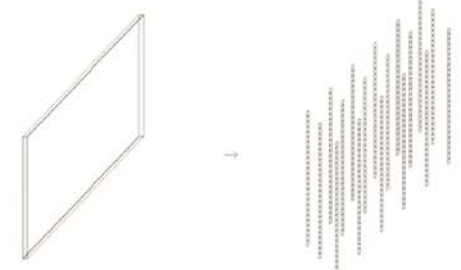


8×8×16mm程度に裁断され、角を丸めたガラスを200mm間隔で吊り下げ、教室を満たす。垂れ下がったガラスは外の喧騒をやわらげ、風にそよぎ、光をやわらかく受け止め教室じゅうに光をまわす。

従来、板ガラスは周囲の環境と建築内部の環境を切り離す役割を果たしていた。しかしこの「枝垂れガラス」は音、風、光などの周囲の環境に積極的に反応し、建築内部の様々な状態の「空気」を映し出す。

人が何かを学ぶ空間において、そういった「空気」を感じることができる空間がふさわしいと考える。日々の変化に応じて刻々と変わっていく環境を受け止め、自らもそれに応じて変化して行く。そのような空間の中、本を読んだり、勉強ができたら幸せであると思った。

「枝垂れガラス」



ダイヤグラム

